

環境経営レポート 2018

（2017年10月～2018年9月）
2018年12月20日 発行



福岡県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類 福岡市南区のタシロラン

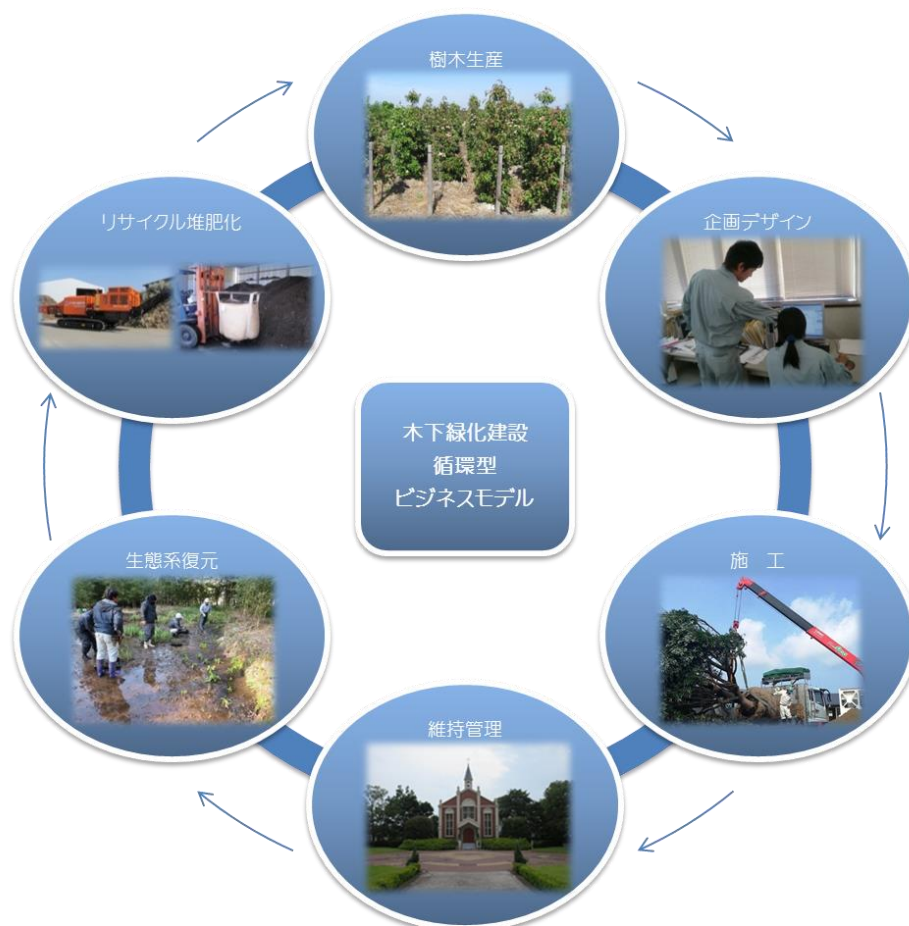
ごあいさつ

木下緑化建設(株)は、造園会社として半世紀以上に誕生し、高度成長期を経て、バブル経済やデフレ不況を乗り越え現在に至っています。この間、造園工事を事業の中心としながらも、樹木生産、庭園・緑地の設計、緑地管理、破碎・堆肥製造（リサイクル）の各体制を整えてきました。

元来、庭園・緑地は、鑑賞の楽しみや憩いの場とされてきましたが、高度成長期に多発した公害問題や開発に伴う自然破壊が深刻化するのを機に、緑地の重要性が高まり、造園工事業に環境緑化という視点加わりました。平成に入り、環境のテーマは地球温暖化や生物多様性へと移り変わり、当社も屋上緑化や壁面緑化など都市環境の改善を目指した特殊緑化及び、地球に対する負荷を抑制するリサイクル事業に積極的に取り組んできました。

さらに、緑地の計画や管理においては、これまで樹木のことだけを考えて行われていたものを、生物の生息環境にも考慮するようになりました。

そして現在は、行政の財政難の中、公園や緑地の運営管理に経営の視点を取り入れ、生物多様性の確保やコミュニケーション・運動の場として健康年齢の向上に寄与する事業へ発展していこうとしています。



目 次

1.	会社概要	2
2.	経営理念と環境方針	4
3.	環境活動推進体制	4
4.	環境目標 計画・実績・評価・次年度の取組（本社/田主丸）	5
5.	環境目標 計画・実績・評価・次年度の取組（リサイクルセンター）	8
6.	マテリアルバランス	10
7.	その他環境関連活動	11
	1) 認証取得/受賞歴 等	11
	2) 地球温暖化の緩和、快適な環境づくり	12
	3) 再生可能エネルギーへの取り組み	13
	4) 既存緑地の管理 公園の指定管理	14
	5) 指定管理公園5カ所での環境への取り組みの実例	16
	6) 社会貢献	26
8.	環境関連法規等遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	27
9.	代表者による全体評価と見直しの結果	28

1. 会社概要

- 会社名 木下緑化建設株式会社
- 代表者名 代表取締役社長 木下 浩市
- 所在地 本社 福岡市南区長丘3丁目13番27号
田主丸営業所 福岡県久留米市田主丸町志塚島219番地1
緑のリサイクルセンター 福岡県久留米市田主丸町志塚島字徳間林1番3
- 環境管理責任者 営業部 課長 山口 琢也
- 連絡先 TEL 092-551-0877 FAX 092-552-7041
E-mail kanri@kinoshitaryokuka.co HP <http://www.kinoshitaryokuka.com/>
- 営業種目 植木、苗木の販売/各種公園設計施工/土木工事一式/産業廃棄物の収集、運搬、処理業/
一般廃棄物の収集、運搬、処理業/公園・スポーツ施設等、施設緑地の運営、管理、および
運営受託に関する業務/農産物の生産・加工・販売、農園・農産物直売店・農産物加工所の
経営、および運営受託に関する業務/キャンプ場、バーベキュー場および研修教育施設の
運営並びに運営受託に関する業務/公園、施設緑地等における教育・文化事業の企画および
興業/地方自治法に基づく指定管理者制度による公共施設の運営受託に関する業務/産業
廃棄物再資源化（木くず）業務/不動産の賃貸借による収益業務 等
- 設立 1967年 2月 9日
- 資本金 4,500万円
- 売上高 2018年度 11億5,924万円
- 従業員数 48名
- 床面積 本社 612.15㎡ 田主丸営業所 52㎡ 緑のリサイクルセンター 3,888㎡
- 許可番号 造園工事業 国土交通大臣許可（特-27）第7066号
土木工事業 とび・土工工事業 国土交通大臣許可（般-27）第7066号

【産業廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第11220080473号	中間処理【破碎（移動式を含む）】：木くず 中間処理（発酵）：木くず	2016年11月29日 2021年11月28日

【一般廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第3014号	中間処理【破碎（移動式を含む）】：木くず、草 中間処理（発酵）：木くず、草	2018年4月1日 2020年3月31日

【産業廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
福岡県知事	第4000080473号	木くず	2016年10月20日 2021年10月19日	無

【一般廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
久留米市長	第1014号	木くず、草 (事業系一般廃棄物に限る)	2018年4月1日 2020年3月31日	無

【特殊肥料生産販売】

福岡県 第2201号

リサイクルウッド堆肥	福岡県第 4895号 (チップ)
ゴールデンアース	福岡県第 5204号 (放線菌)
ゴールデンアース2	福岡県第 5249号 (キンド・尿素等)

●資格者数

資格名	人数	資格名	人数
1級造園施工管理技士	18名	公園管理運営士	5名
2級造園施工管理技士	5名	植栽基盤診断士	3名
1級土木施工管理技士	12名	街路樹剪定士	1名
2級土木施工管理技士	7名	破碎・リサイクル施設技術管理士	4名
1級建築施工管理技士	1名	自然再生士	5名
樹木医	1名	屋上緑化コーディネーター	4名
ピオトープ管理士(2級施工)	2名	職長・安全衛生責任者	22名

(延べ90名/従業員48名)

●収集運搬

運搬車両の種類と台数

キャブオーバー	2 t	2台
ダンプ	2 t	1台
キャブオーバー	2.85 t	1台
コンテナ専用車	3.85 t	1台

●処理施設

施設の種類	移動式破碎施設(日立建機日本株) ZR260HC)
処分能力(規模)	213 t/日(8h)
施設の種類	移動式破碎施設((株)諸岡 MC-2000型)
処分能力(規模)	27.44 t/日(8h)

●対象範囲

対象組織 : 本社・田主丸営業所・緑のリサイクルセンター
 対象活動 : 造園工事業・土木工事業・とび・土工工事業、産業廃棄物処分業
 一般廃棄物処分業、産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業

2. 経営理念と環境方針

【 経営理念 】

- ・環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する。
- ・品質確保と信頼に努め顧客満足を向上する。
- ・常に会社の繁栄と社員の生活向上に努める。

【 環境方針 】

木下緑化建設株式会社は、緑の住環境づくりを通じて「快適な暮らしと緑」「自然との共生」を掲げ、全従業員が事業活動のあらゆる面で地球環境に密接に関わっていることを認識して行動します。

- 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。

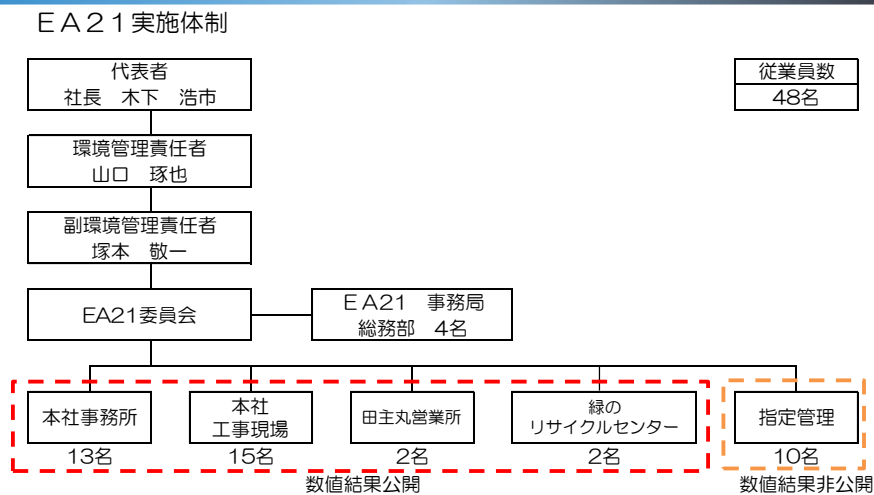
(1) CO ₂ 排出量の削減	(5) 生物多様性保全への取り組み
(2) 廃棄物の削減	(6) 社会貢献に努める
(3) 排水量（水使用量）の削減	(7) 計画的な環境教育・訓練の実施
(4) リサイクルの促進	(8) 化学物質の適正管理
- 地球温暖化の緩和、快適な環境づくりに貢献します。
 - 公園、集合住宅緑化、工場緑化、外構造園の緑化事業はもとより、屋上緑化、壁面緑化、駐車場緑化等の環境緑化事業を推進します。
 - 開発やメンテナンスにより発生する根株や剪定枝、草をチップ化し、これを材料に堆肥製造し、植生基盤材として新しい緑地へ還元します。
 - 温室効果ガスをほとんど排出しない発電方法である「風力発電」の普及に取り組みます。
 - 公園の運営管理を通じて生き物の観察記録を作成し地域の環境指標として活用します。
- 関係する環境関連法規を遵守します。

制定：2010年10月1日

改訂：2017年10月1日

代表取締役社長 木下 浩市

3. 環境活動推進体制



所属	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・代表として環境経営全般について責任と権限を持つ。 ・環境方針の作成・見直し・従業員への周知を行う。 ・環境管理責任者、EA21事務局員を任命する。 ・EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、環境実績を向上させる。 ・環境方針、環境目標、環境活動計画の達成と実績の結果を 合同会議で報告する。 ・発生した問題点を経営会議で報告し、是正処置、予防処置を合同会議にて全従業員へ周知徹底する。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う。 ・社外からの環境情報の収集と伝達を行う。
EA21委員会（経営会議）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針、環境目標の達成状況及び環境計画の実行状況を審議する。 ・関連する法規制等を各課員へ周知徹底し遵守する。 ・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚する。 ・緊急事態への準備及び対応の訓練をKY活動で実施する。 ・EA21方針を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

4. 環境目標 計画・実績・評価・次年度の取組（本社/田主丸）

●2018年度は以下の計画に基づき活動を行いました。

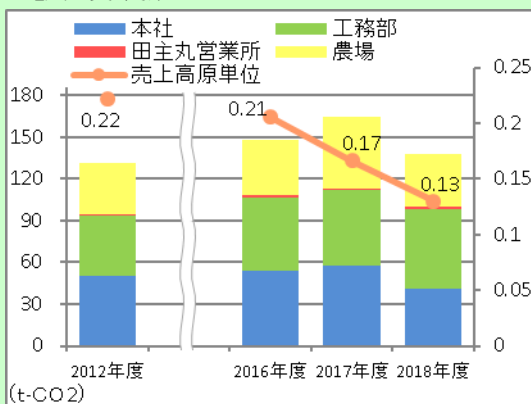
目標項目	活動計画
二酸化炭素排出量の削減	合同会議（月1回）の議題項目に“E A21報告”を設ける。 電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する。 朝礼で“E A21スローガン”唱和する。 環境活動を周知徹底する。
電気使用量の削減	使用していない機器類・照明の電源を切る。 仕事の効率化を図る。
燃料使用量の削減	車両の切り替えをする。 幹部車両は原則ハイブリッドカーとする。 ipadを活用した情報伝達で無駄な移動を無くす。 仕事の効率化を図る。 アイドリングストップとエコドライブを徹底する。
廃棄物排出量の削減	発生原因の重大要素をつかみ、改善策を設定する。
コピー機使用量の削減	紙媒体以外のPRを強化する。 裏紙使用を徹底する。
水使用量の削減	水資源の無駄が無いように実績管理をする。 田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮を図り灌水を削減する。
ビオトープへの取り組み	自然教育を実施する。 九千部山での生物種の確認を進める。 生物多様性の重要性啓発を進める。

●各項目の実績値・売上高原単位は以下の通りです。

（2016年度より目標の設定や評価の確認を各排出量・使用量を売上高（百万円）で割り算出した原単位にて行う事としました。）

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2007年度実排出係数 $0.387 \text{ kg-CO}_2/\text{kWh}$ を使用します。

二酸化炭素排出



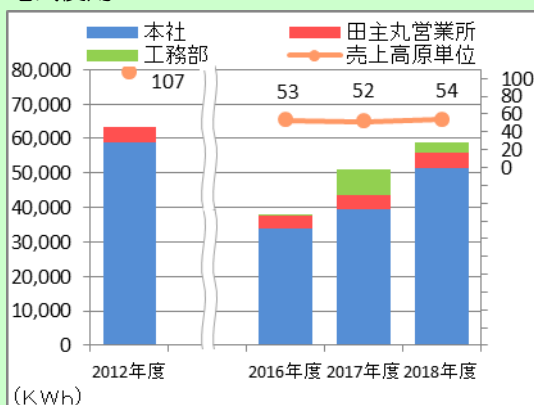
取組結果

昨年度に続き、2018年度も工事高は維持され、県外工事も多くありましたが、大型車チャーターによる配達回数の削減や、現地での調達を組み入れることで、昨年は上昇となった総排出量も減少に転じ、売上高に対する原単位においても大幅な削減効果が得られました。

次年度の取組

県外での営業・工事は、さらに増える可能性があります。遠距離運転は疲労、事故の増加を招きかねません。その為、移動手段を車だけに頼らず、公共交通機関+現地でのレンタカーを活用する等、「排出効率の改善が移動効率の改善」となるよう取り組みます。

電気使用



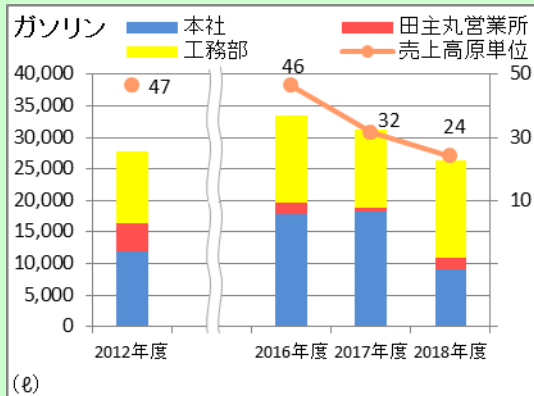
取組結果

昨年度に続き、社員増加に伴い使用部屋数が増加したことに加え、本社ビル4階を社員の寮として使用開始した為、本社での電気使用量は増加となりました。しかし、売上高原単位では横ばいとなっており、一定のバランスは保てた結果となりました。

次年度の取組

新入社員の増加に伴い、節電意識にばらつきが出ているので取組の意義やその効果について、再度周知を図っていきます。また、2フロアに分散していた社員を1フロアにまとめます。

燃料使用



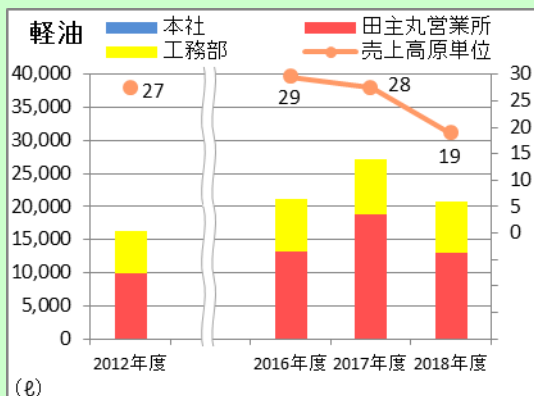
取組結果

遠方へ移動の際、公共交通機関の活用を促進したことで、本社のガソリン使用が大幅に減少しました。しかし、農場内での移動に伴う車の使用頻度が高まったことにより、ガソリン使用が増加となりました。また、工事現場への移動時に自転車を使用する等、身近に出来る削減に取り組みました。

次年度の取組

営業車両では成功した、遠方移動の公共交通機関利用を工事車両でも取り入れ、移動効率の改善に取り組みます。また、経験が浅い社員が起こしがちな資材調達の段取り不足による、追加配送、自己配送の削減にも取り組み、現場での燃料使用削減を図ります。

燃料使用



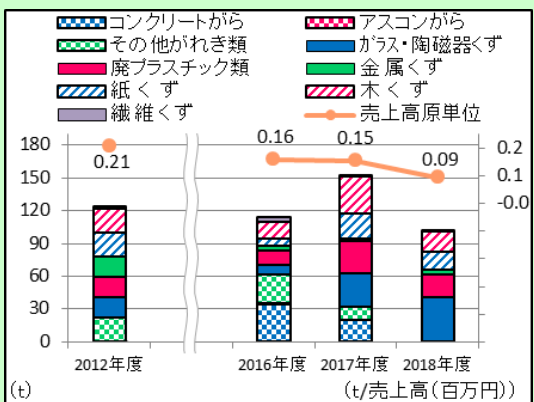
取組結果

今年度も現場での軽油使用は工事高の増加に比例せず、昨年度同様の結果に抑えられました。また、農場では配達効率の向上により、軽油使用量が減りました。

次年度の取組

農場における配達効率及び本社工事の現場間における移動効率のさらなる向上を図ります。

産廃ボックスの廃棄物排出



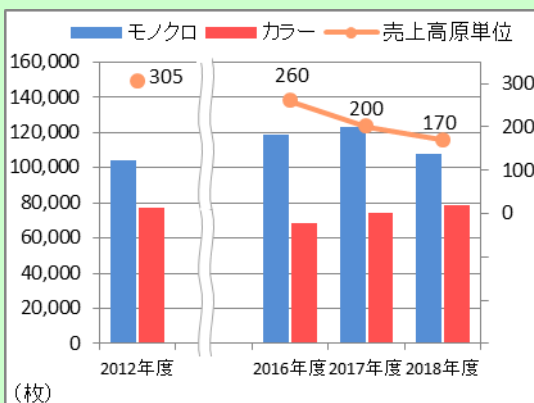
取組結果

工事現場にて元請側で廃棄すべきもの、こちらで持ち帰る必要があるものを進言・協議を行うことで、適正な処置が行われる現場が増えていきました。その結果、コンクリートやがれき類を中心に、廃棄物排出量の削減となりました。

次年度の取組

小規模な工事現場でも、産廃の適正処置を行っていただけるように、引き続き、進言・協議を行っていき、不要な持ち帰りゴミの削減に取り組みます。また、ガラス・陶磁器くずの排出割合が急増しているため原因を究明します。

コピー機使用



取組結果

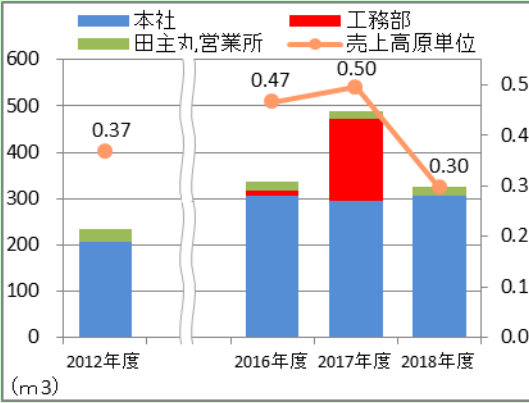
昨年度に引き続きコピー機の使用枚数は増加傾向にあります。対外的な文書に関してはペーパーの使用が必要な場合がありますが、社内文書のペーパーレス化が課題となりました。

次年度の取組

回覧資料に関しては、まだまだ印刷資料を使用しています。会議資料のペーパーレス化が成功した結果を踏まえ、回覧資料だけにとどまらず報告書類等に関しても、社内書類のペーパーレス化に取り組みます。



水使用



取組結果

現場での水使用は、昨年度一時的に大幅な増加となりましたが、今期は長期滞在の現場事務所は設けなかったため、例年同様の数量となり、削減の結果となりました。

次年度の取組

今年度の課題としていた雨水活用については、本社では検討の域を超えられませんでした。次年度は、指定管理公園（花畑園芸公園）での雨水利用への取り組み（P17 参照）を本社でも取り入れ、実効性のある雨水活用計画を立て、水使用削減に取り組めます。

ピオトープの取り組みについて

九千部山の昆虫（平成30年9月現在暫定）

番号	目	科	種	
1	イシノミ目	1	2	
2	カゲロウ目	7	22	
3	トンボ目	7	18	
4	カウゲラ目	2	9	
5	ハサミムシ目	2	2	
6	ゴキブリ目	4	4	
7	カマキリ目	2	4	
8	バッタ目	7	26	
9	ナナフシ目	1	4	
10	カメムシ目	25	85	
11	アザミウマ目	1	1	
12	アチャタテムシ目	1	4	
13	アミメカゲロウ目	5	7	
14	コウチュウ目	5	172	
15	シリアゲムシ目	2	3	
16	ハエ目	20	49	
17	トビケラ目	5	8	
18	チョウ目カブ	34	640	
19	チョウ目チョウ類	5	55	
20	ハチ目	19	79	
合計		20	155	1194

取組結果

自然教室の実施及び生物多様性保全の重要性啓発については教室のみならず種々の媒体を使って子供向きから大人向きまで種々実施しました。

（事例は P18～P22 を参照）

九千部山では昆虫の分布調査を継続しています。写真による記録を採用しているため、撮影できた昆虫の記録にとどまっております。種の同定が困難なものもありますが、九千部山の範囲を那珂川の清流域まで含めて調査した成果が左表です。

次年度の取組

やるべきことはたくさんありますが、社員の配置換えのため、次年度は今までと同様の取り組みはかなり困難になっています。できる範囲で前向きに取り組んでいきます。

●各目標項目に対する評価（○×）と次年度の目標値は以下の通りです。

目標項目	2018年度目標	2018年度実績	評価	2019年度目標	単位
二酸化炭素排出量原単位	0.20	0.11	○	0.20	t-CO ₂ /売上高（百万円）
電気使用量原単位	55	54	○	55	KWh/売上高（百万円）
燃料使用量原単位	60	43	○	60	ℓ/売上高（百万円）
廃棄物排出量原単位	0.16	0.09	○	0.16	t/売上高（百万円）
コピー機使用量原単位	250	170	○	250	枚/売上高（百万円）
水使用量原単位	0.41	0.30	○	0.41	m ³ /売上高（百万円）

全体の評価 / 次年度の取組

売上高原単位で見た全体の結果は、7つの目標項目のうち、ほぼ横ばいの電気使用を除く各項目で昨年度から改善することが出来ました。

営業活動が九州各地に展開されたことによる移動距離の増加は、様々な環境負荷を生み出す要因となりました。以前の体質であれば、どこに行くとしても、まずは車利用、車移動を考えていたと思います。しかし、公共交通機関とレンタカー活用等により、環境負荷だけでなく、社員への負荷も低減できたことは、エコアクションによる大きな効果だと思います。

ところが、県内工事現場間の移動距離増や農場内での走行距離増により、各々のガソリン使用量が増加しました。図らずも「距離」がキーワードともなった1年でした。

また社内資料のペーパーレス化に関しては、どこでも確認でき、忘れることも、取りに行くための余計な移動もすることなく、確実に手元に資料が残ることから、メリットの多い施策でありました。これもエコアクションが業務効率の向上に貢献した成功事例でした。

次年度の取組については現場担当者ごとのガソリン使用量を分析し、1人が担当する現場を一定方面に集約したり、事前の段取りで工程管理の精度を上げたり、社員教育とエコアクションを連動させていきます。さらに本社電気使用に関しては、2階と3階に分散している社員を2階にまとめることにより、照明や空調に要する電気使用量を削減します。

当社における管理施設数・社員数の増加は、次年度も続いていく予定です。上記のような社員にとってもメリットのあるエコアクションの成功事例を共有していくことで、より一層の意識の定着や発展につながるよう、また、生物多様性保全の重要性の認識や外部への働きかけにも取り組んでいきます。

5. 環境目標 計画・実績・評価・次年度の取組（リサイクルセンター）

●2018年度は以下の計画に基づき活動を行いました。

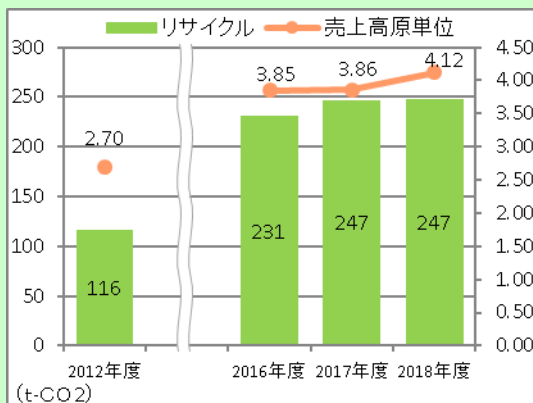
目標項目	活動項目
二酸化炭素排出量の削減	合同会議（毎月1回）の議題の中に「E A21報告」を設ける。 電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する。
電気使用量の削減	仕事の効率化を図る。
燃料使用量の削減	仕事の効率化を図る。 iPadを活用した情報伝達で無駄な移動を無くす。 破砕機の定期的な点検整備をする。
廃棄物排出量の削減	異物混入が無いよう搬入業者へ注意喚起を徹底する。
水使用量の削減	田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮を図り灌水を削減する。
産廃・一廃 受託 リサイクル事業の促進	産廃受託量の増加を図る。 リサイクル製品の活用をPRする。

●各項目の実績値・原単位は以下の通りです。

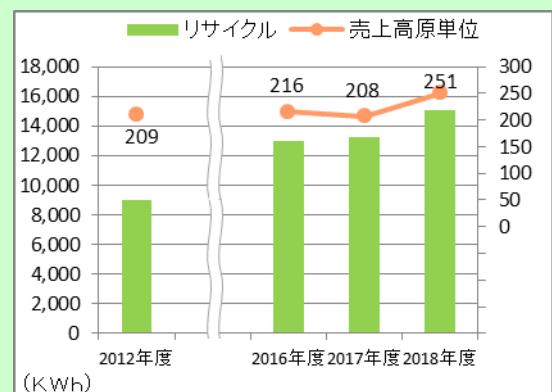
（2016年度より目標の設定や評価の確認は、各排出量・使用量を売上高（百万円）で割り算出した原単位にて行う事としました。）

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2007年度実排出係数 0.387 k g -CO₂/ k w hを使用します。

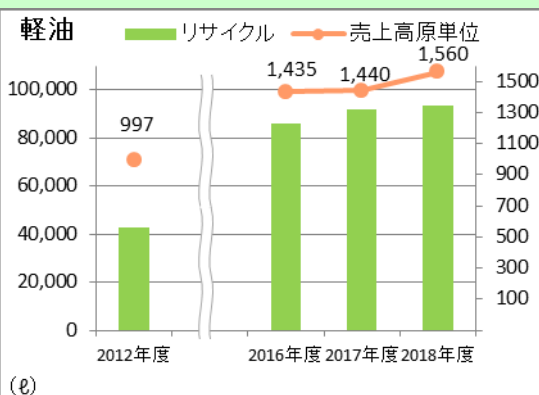
二酸化炭素排出



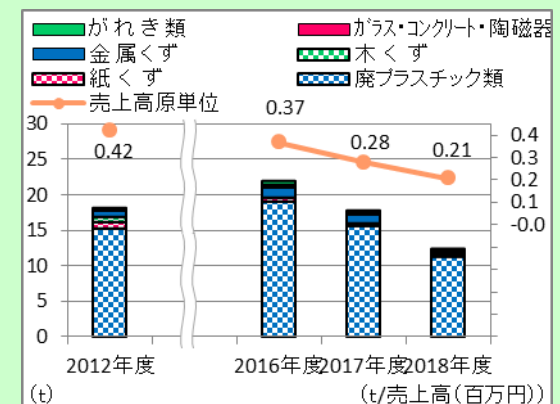
電気使用



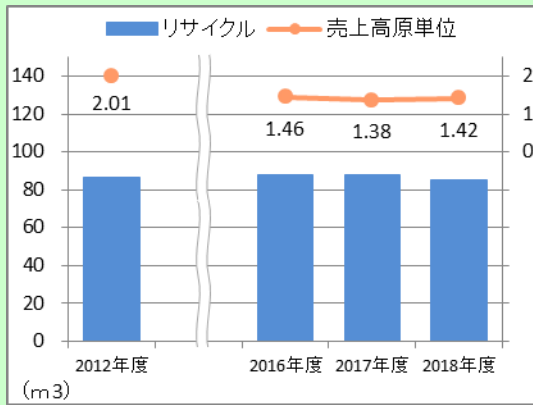
燃料使用



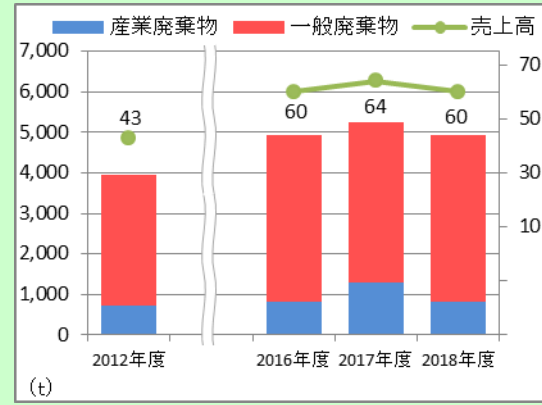
産廃ボックスの廃棄物排出



水使用



リサイクル事業の推進



●各目標項目に対する評価（○×）と次年度の目標値は以下の通りです。

目 標 項 目	2018年度 目 標	2018年度実績	評価	2019年度目標	単 位
二酸化炭素排出量原単位	3.52	4.12	×	3.52	t-CO ₂ /売上高 (百万円)
電気使用量原単位	200	251	×	200	KWh/売上高 (百万円)
燃料使用量原単位	1,400	1,560	×	1,400	ℓ/売上高 (百万円)
廃棄物排出量原単位	0.33	0.21	○	0.33	t/売上高 (百万円)
水使用量原単位	0.83	1.42	×	0.83	m3/売上高 (百万円)
産廃受託 リサイクル事業の促進	60	60	○	60	百万

全体の評価 / 次年度の取組

リサイクルセンターは堆肥の搬出先が遠く、搬出効率が上がらなかったり機械の故障等が多く生産能率が上がらなかったことが、軽油の使用量・原単位の上昇を招いていると思われます。電気使用量・原単位の上昇については、草堆肥の破碎を厳格に取り組むようになり、作業に伴うベルトコンベアの使用期間が長くなったことが、2012年頃と比べて大きな上昇の原因と思われます。昨年と比べ上昇している原因としては作業の安全性を高める為、センター内に新たに外灯を設置したことが考えられます。

次年度は、効率的な堆肥の搬出先の確保として、リサイクルセンターの近接地にある農場の整備に取り掛かります。また、搬出用トラックについても現在使用しているものよりも大型化を図り、搬出効率の向上を目指します。電気使用については、原因究明のためベルトコンベアの稼働記録等、年度ごとの稼働量の違いが分かる取り組みを行います。



リサイクルセンター

7. その他環境関連活動

下図は 2018 年度の資源や資材の投入（インプット）から環境負荷量（アウトプット）までを示したものです。

資源投入量（インプット）							
	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >			
		2017年度	2018年度		2017年度	2018年度	
本社 田主丸(営)	電力量	51,177千kWh	58,884千kWh	圃場樹木 (2017.9.30 現在)	7,099本	6,997本	
	上水	471・	306・	循環資源使用量	3,107t	172t	
	地下水	18・	19・		モノクロ	116,821枚	108,105枚
	燃料	ガソリン	31,213ℓ	26,263ℓ	カラー	72,794枚	78,323枚
		軽油	27,167ℓ	20,737ℓ			
緑の リサイクルセンター	電力量	13,284千kWh	15,040千kWh	循環資源使用量	9t	65t	
	上水	0・	0・	その他資源	0t	0t	
	地下水	88・	85・	コピーカウンター	モノクロ	6,490枚	6,064枚
	燃料	ガソリン	0ℓ		0ℓ	カラー	1,787枚
		軽油	92,169ℓ	93,622ℓ			



事業活動							
 <p>緑化事業</p>							
 <p>指定管理</p>							
 <p>樹木生産・販売</p>							
 <p>リサイクル事業</p>							
樹木供給量（植栽樹木移植本数）		2017年度	26,225 本				
		2018年度	91,780 本				
圃場樹木（H28.9.30）		2017年度	441 本				
		2018年度	588 本				
リサイクル事業 （中間処理）	①産業廃棄物（受入）	2017年度	1,291 t	（木くず）			
		2018年度	831 t	（木くず）			
	②一般廃棄物（受入）	2017年度	3,952 t	（木くず・草）			
		2018年度	4,142 t	（木くず・草）			
	③収集運搬	2017年度	0 t				
		2018年度	0 t				
	④再資源化量	2017年度	5,243 t	（木くず）チップ化		2,671 t	
				（木くず）チップ、バイオマス燃料		1,198 t	
2018年度		4,973 t	（木くず・草）発酵、堆肥化		1,374 t		
			（木くず）チップ化		2,722 t		
			（木くず）チップ、バイオマス燃料		1,177 t		
			（木くず・草）発酵、堆肥化		1,074 t		



環境負荷量（アウトプット）						
	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >		
		2017年度	2018年度		2017年度	2018年度
本社 田主丸(営)	二酸化炭素排出量	164,164 kg-CO ₂	137,219 kg-CO ₂	チップ	952t	57t
	排水	489・	385・	堆肥	9t	7t
緑の リサイクルセンター	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >		
		2017年度	2018年度		2017年度	2018年度
	二酸化炭素排出量	247,365 kg-CO ₂	247,365 kg-CO ₂	チップ	2,917t	3,842t
	排水	88・	85・	堆肥	1,365t	1,067t

1) 認証取得/受賞歴 等

認証時期	認証等名称	認証機関
2002年2月～	ISO 9001	Global Compliance Certification Pty Ltd (GCC)
2011年4月～	エコアクション21	一般財団法人 持続性推進機構
2011年9月～	エコ事業所	福岡県地球温暖化防止活動推進センター
2016年8月～	社会貢献優良企業認定	福岡市
2017年1月～	OHSAS 18001	Global Compliance Certification Pty Ltd (GCC)



平成26年度エコアクション21
環境活動レポート大賞・九州
エコアクション21 環境活動レポート大賞・九州



第18回環境コミュニケーション大賞 表彰式
主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム
第18回環境コミュニケーション大賞
環境活動レポート大賞・九州
環境レポート部門・優秀賞



平成27年度エコアクション21
環境活動レポート大賞・九州
九州環境カウンセラー協会特別賞



平成28年度エコアクション21
環境活動レポート大賞・九州
環境貢献賞



平成29年度エコアクション21
環境活動レポート大賞・九州10周年記念
特別賞



平成30年度エコアクション21
環境活動レポート大賞・九州
生物多様性部門賞



海の中道フラワーピクニック2016
うみなかフラワーガーデンコンテスト
プロフェッショナル部門 最優秀賞



海の中道フラワーピクニック2017
うみなかフラワーガーデンコンテスト
プロフェッショナル部門 優秀賞



海の中道フラワーピクニック2018
うみなかフラワーガーデンコンテスト
プロフェッショナル部門 最優秀賞

2) 地球温暖化の緩和、快適な環境づくり

●屋上緑化

断熱効果はヒートアイランド現象の抑制に効果を奏しています。



J R大分シティ



ホルトホール大分



M J R六本松

●室内緑化

室内など、より身近な場所を緑化することで植物と共に生きる空間を提供しています。



J R博多シティ くうてん



J R博多シティ くうてん



某飲食店 店内

●壁面緑化

よく目に留まる壁面を緑化することで、環境へ配慮していることをアピールする効果もあります。



久留米市駅東口立体駐車場



新宮中央駅



J R J P 博多ビル

●街並づくり・エクステリア

最も身近な緑として、くらしの空間へ運び届け、共に暮らせる空間づくりを立案し、設計、施工を行っています。



ジェイフォレスト古賀・新宮



ジョイナス春日原東町



ジョイナス新宮

●集合住宅

そこに暮らす人々とその建築物に高い付加価値を与え、また周辺の景観を向上させる植栽を立案し、設計、施工を行っています。



M J R大分駅前



M J R新宮中央



M J R浦上プレシャスガーデン

●建物緑化

建物デザインの個性化を担う植栽帯の創出は、美しい街並みづくりにつながっています。



六本松 421



井門ビル



ホテルウィング

●公共緑地

広大な生き生きとした緑地は、訪れる人に憩いとゆとりをもたらします。



大濠公園 日本庭園



海の中道海浜公園



旧金石城庭園

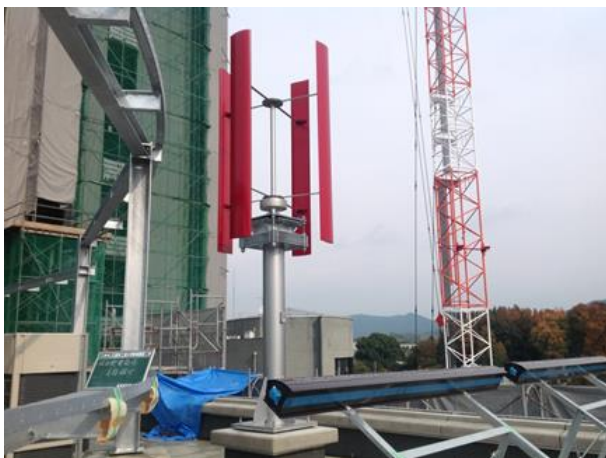
●樹木の生産・販売

植木・苗木の生産地として全国的に有名な田主丸で緑化樹木の生産・販売を行っています。圃場の見学会も行っており、お客様をご案内しております。



3) 再生可能エネルギーへの取組

温室効果ガスをほとんど排出しない発電方法である「風力発電」の普及に取り組んでいます。



久留米工業大学（2013年設置）



六本松 421（2017年設置）

4) 既存緑地の管理 公園の指定管理

●緑地のメンテナンス

緑は生きています。そこに暮らす人々にきれいな花や葉を見せたり、照付ける日差しを和らげたり、やさしい風を運ぶためには、緑が健全でなければなりません。健全な緑に健全な人々が集う。そんなやすらぎの空間を維持し続けることができるように取り組んでいます。



ホテルオークラ JRハウステンボス



湯布院温泉「梅園」



JR博多シティ「くうてん」

●運営管理

JR博多シティ屋上庭園運営管理



鉄道神社と運営スタッフ



バックヤードでの親子畑体験



くうてん 植栽管理

JR大分シティ屋上庭園運営管理



屋上花菜園 花の植付



屋上菜園イベント



屋上菜園 作付作業

●ピオトープ

在来種（植物・動物）の保護と触れて遊べる空間を、日常生活の身近な環境として復活させようとしています。



マンション中庭



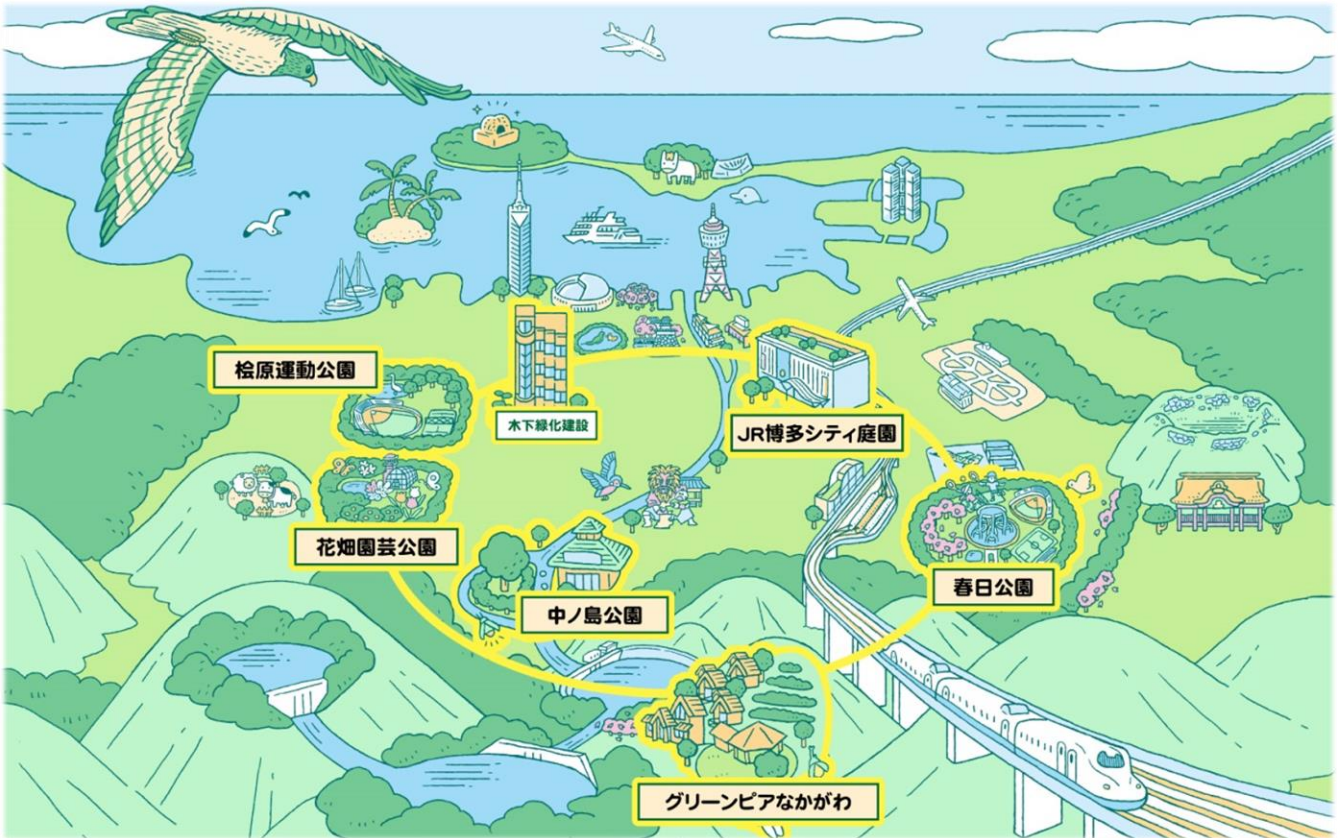
つばめの杜広場



湯布院温泉「梅園」

●指定管理者

現在、福岡県・福岡市・那珂川市より委託を受け、5公園の指定管理を行っています。福岡県内の山地から住宅地まで幅広い地域の緑地を管理することで一つの公園に留まらず、地域全体の生態系保全に寄与することができますと考えています。



※JR博多シティは民間企業より委託

【 グリーンピアなかがわ 】



【 中ノ島公園 】



【 花畑園芸公園 】



【 桜原運動公園 】



【 春日公園 】

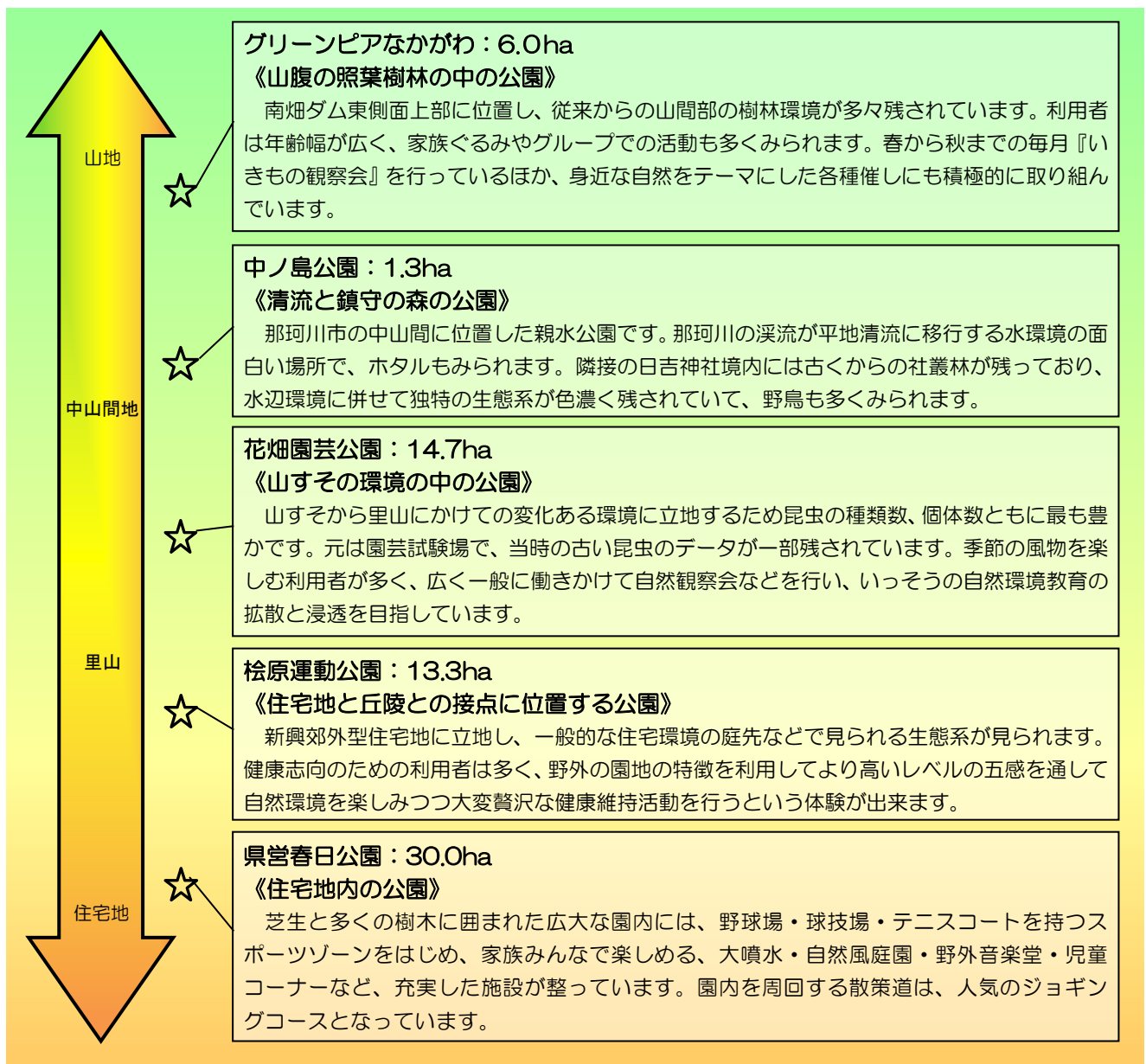


5) 指定管理公園 5 力所での環境への取り組みの実例

●はじめに

エコアクション 21 のガイドラインの根幹である環境負荷の軽減につき、当社は電気や水などの使用量の削減、原材料の削減、農薬化学肥料などの化学物質や CO₂ の排出量削減などに関してさまざまな取り組みをおこなってきています。併せて、地球規模で見た資源生産量と消費量のバランス、そのリサイクル化もとても深い大きな課題です。

当社が長年手がけてきた緑化においては、ヒートアイランド現象の緩和、CO₂ 削減、人間の生活活動や精神活動への助力などで社会に貢献してきました。しかし、地球の総生産量に比べて消費量が 20%以上も上回っているといわれる現在では、消費重視型の社会からいち早く脱却し生産に見合った消費を考えていかねば、人類の存続はあと数十年とさえ言われています。こういった基礎的で最重要な関係を理解していただくため、当社は社会と触れ合う機会をことごとく捉えて環境関連の基礎知識の普及に努めています。地球の生物由来資源の生産に密接にかかわる生物多様性あるいは生態系の保全は失うと二度と手に入らない大変重要なものです。当社においてはこのような自然環境の把握も大事だと考え、その構成生物種の分布調査や季節変動なども調べています。今ではレッドデータリストに上ってしまった種、あるいはまったくの新参者、それぞれに原因があり、1960 年代を境として急速に失われていく循環型の自然環境を本来の姿に戻せるタイムリミットはすでに過ぎつつあります。当社がこの事実に対する対策として実際に取り組んでいる具体例は多分野に及んでおり、それらの一部は、例えば昨年環境活動レポートでは①ハード面の拡充、②ソフト面の多様化、③情報の集積と発信という三つの面から見てレポートしました。今回はまだ紹介できていなかった多くの例や今季新たに取り組んだ幾多の行動のうち、主だったものをいくつかに分類してご紹介いたします。



●水資源及び電力に関する取り組み

1. 水資源の有効利用と使用量削減

地面に降り注ぐ雨水の余剰分を、排水として流出する前に一時的にタンクに貯めて利用可能時間を延ばし、有効に活用しようという試みが『花水くん』です。これにより、一時的に多量に降り注いだ雨水を後日の灌水などに長期間にわたって必要量だけ使うことができ、水道水の使用量が抑えられるほか、給水管のない場所までの用水の運搬作業が不必要になります。

また、『雨庭』の構築も環境にやさしい試みです。雨庭の実際の展示や講演会の開催なども行いました。雨を楽しむだけでなく雨庭は地面にゆっくりと雨水を浸透させます。

水道水の使用量低減に向けての取り組みとしては、女性トイレには流水音の流れる擬音装置をつけ、洗浄水の使用量を抑えています。そのほか、水道の各蛇口には特製の節水喚起シールを作成して貼りました。



雨水タンク花水くん

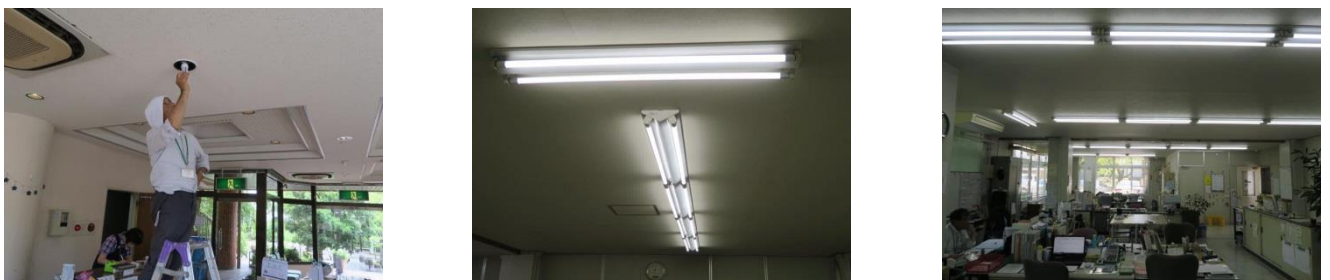
雨庭（最優秀作品）

トイレの擬音装置

特製節水シール

2. 電力使用光源の質の変換

待機電力の削減、電気機器のこまめな入り切り、冷暖房機器の温度コントロールなどの省エネ努力は今までにすでに限界近くまで行ってきております。今季さらなる省エネ行動として、初期投資金額はかかりますが、電力を使用する灯火類を、即効的な省エネ効果や耐用時間の延長が大きく期待できる LED に交換を始めました。LED への交換は電力使用料金や交換経費などのランニングコストの削減が図れますし、器具からの不要放熱や水銀使用の低減にも効果があります。



蛍光灯などを LED に交換

交換後の様子

交換後の事務室

3. 気温のコントロール

①ミストなどの設置

本来ならば氷河期に差し掛かっているはずの地球ですが、温室効果ガスによる夏季の高温傾向など年々温暖化がひどくなっています。夏季の熱中症警報がもはや日常化している中で、来訪者向けのミストやシャワー機器を設置することにより周囲気温や体感温度を低下させ清涼感を感じさせています。あわせてスポーツ関連施設の管理場所ではアイシングのための冷却剤などの用意もしています。



ミストの設置

ミストの設置

シャワーの設置

②植物体の光合成、蒸散作用などの利用

蒸散作用による気化熱吸収、太陽光遮蔽や拡散による輻射熱の低減、光合成による温室効果ガス CO₂ の吸収効果を期待して、夏季は植物を使ったグリーンカーテンを設置しています。なお、大気の移動エネルギーを利用した風力発電装置の普及活動も、昨年同様に広く勧めています。



支柱の組み立て



グリーンカーテン



グリーンカーテン

●生物多様性に関する取り組み

1. 各種観察会や体験会の開催

自然に親しみ自然の大切さや仕組みをわかり、自然のリサイクルの中で将来も安定して暮らしていけるよう、各種の自然観察教室や講習会、収穫体験会などを継続して開いています。



いきもの観察会



ネイチャー講習会



キッズファーム

2. 生物基礎調査の実施

環境をより良い方向へ導くための第一段階として、その地に現存する生物種の実態調査を毎年おこなっています。

①チョウ類のトランセクト調査（ルートセンサス調査）の継続

チョウ類は生物の中で生態面の解明などが比較的進んでいるグループです。併せて昼行性であること、大きさが視認に適していること、個体数種や類数が集計上取り扱いやすい範囲であることなど尺度としての種々の利点があります。このチョウ類のトランセクト調査に取り組んで3年目になりますが、指定管理公園それぞれの環境把握や構成種の年間変動など貴重な資料がだんだんとそろいつつあります。毎月の調査結果が調査日の天候に影響されるため、更なるデータの蓄積が必要です。（成果の一部はすでに昨年度レポートしました）

②植生調査

本年は、桧原運動公園において地域の生物多様性の基盤となる園内の自生樹、植栽樹木の種類のリストアップをおこないました。現在までに 54 科 135 種の樹木が確認されました。敷地は油山の山麓に位置しますが住宅街と接しており、庭木の種子が鳥によって播かれたと思われる実生苗木数種が二次林中に少なからず見受けられ、大変興味をそそられました。これらの樹木データについては来訪者をはじめ社会にホームページあるいは SNS などを通じて少しずつ紹介をしてゆくことを計画しています。

桧原運動公園内の樹種一覧表

番号	科名	種数	和名
1	アオイ科	2	フヨウ、ムクゲ
2	アカネ科	2	クちなし、ハクチョウゲ
3	アケビ科	3	アケビ、ミツバアケビ、ムベ
4	アジサイ科	1	アジサイ
5	イチヨウ科	1	イチヨウ
6	ウコギ科	5	カクレミノ、キツタ、セイヨウキツタ、センノキ、タラノキ、ヤツテ
7	ウルシ科	2	ヌルテ、ハゼノキ
8	エゴノキ科	1	エゴノキ
9	オトギリソウ科	1	タイリンキンシバイ
10	カエデ科	2	イロハカエデ、トウカエデ
11	カキノキ科	1	リュウキュウマメガキ
12	カツラ科	1	カツラ
13	カバノキ科	2	イヌシテ、オオハヤシャブシ
14	ガリア科	1	アオキ
15	キョウチクトウ科	1	テイカカズラ
16	クスノキ科	4	クスノキ、シロダモ、タブノキ、ヤブニッケイ
17	グミ科	2	ツルグミ、ヒックリグミ
18	クルミ科	1	ノグルミ
19	クロウメモドキ科	1	ケンボナシ
20	クワ科	3	イヌビワ、オオイタビ、マグワ
21	サクラソウ科	2	マンリョウ、ヤブコウジ
22	シソ科	3	クサギ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ
23	スイカズラ科	3	アベリア、オオデマリ、スイカズラ
24	スズカケノキ科	1	プラタナス
25	センダン科	1	センダン
26	センリョウ科	1	センリョウ
27	ツツジ科	4	アセビ、シャシャンボ、ドウダンツツジ、ヒラドツツジ
28	ツバキ科	3	サザンカ、ナツツバキ、ヤブツバキ
29	トウダイグサ科	1	ナンキンハゼ
30	ニシキギ科	3	ツルウメモドキ、トベラ、マサキ

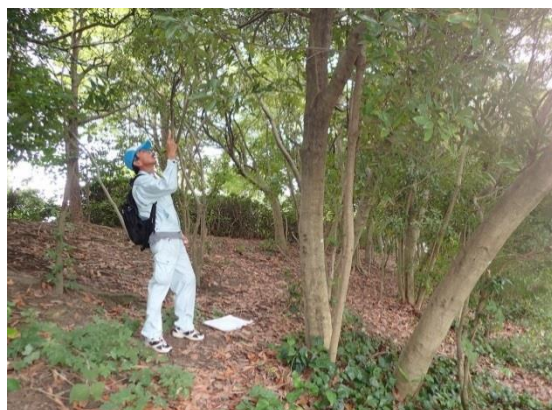
番号	科名	種数	和名
31	ニレ科	4	アキニレ、エノキ、ケヤキ、ムクノキ
32	ハイノキ科	2	クロキ、ミミズバイ
33	バラ科	10	カリン、サトザクラ、シャリンバイ、ハラ、ハライチゴ、ピラカンサ、ビワ、フユイチゴ、ボケ、ヤマザクラ、ヤマブキ、ユキヤナギ、sp1、sp2
34	ヒノキ科	3	カイツカイブキ、ヒノキ、フィリフェラオーレア、メタセコイア
35	ヒメハギ科	1	サルスベリ
36	ブナ科	10	アラカシ、クヌギ、コナラ、シバグリ、シラカシ、スタジイ、ツブラジイ、ナラガシワ、マテバシイ、ミスナラ、
37	マキ科	1	イヌマキ
38	マツ科	1	アカマツ
39	マツサ科	1	サネカズラ
40	マメ科	6	エンジュ、ナツフジ、ニセアカシア、ネムノキ、ヤマハギ、ヤマフジ、
41	マンサク科	2	イスノキ、ベニバナトキワマンサク
42	ミカン科	1	カラスザンショウ
43	ミズキ科	3	ハナミズキ、ミズキ、ヤマボウシ
44	メギ科	1	ナンテン、ヒイラギナンテン
45	モクセイ科	4	キンモクセイ、シマトネリコ、ネスミモチ、ヒイラギ、レンギョウ
46	モクレン科	2	コブシ、ホオノキ
47	モチノキ科	5	イヌツゲ、クロガネモチ、ソヨゴ、ベニカナメモチ、モチノキ
48	モッコク科	3	ハマヒサカキ、ヒサカキ、モッコク
49	ヤシ科	1	ワジュロ
50	ヤナギ科	2	カワヤナギ、クストイゲ
51	ヤマモモ科	1	ヤマモモ
52	ユズリハ科	1	ヒメユズリハ
53	リョウブ科	1	リョウブ
54	レンブクソウ科	1	ガズミ、サンゴシュ

③樹木管理台帳の作成

福岡市中央区某公園における本年7月の老樹折損事例に鑑み、市より危険樹木の洗い出しの要請がありました。当社ではこの機会を捉え、桧原運動公園において樹木の適切な管理をおこなうことにしました。より健康な樹木の生成を促し、来訪者に危険が及ばないように老衰樹などの枯折や倒壊を事前に予測するために、樹木の管理台帳を作成し運用する体制をとりました。来訪者が通行や利用するエリア内（園外であっても樹木倒壊範囲と重なる通行エリアを含む）の樹木 1,870 本について、その位置、樹種、胸高幹径、樹高、枝張り、株立ち、樹勢、空洞・虫害・菌害の有無と程度などの個別調査を行い、樹木台帳を作りました。この台帳は今後公園管理の一つの方法として利用していきます。



樹木のナンバリング



調査風景



⑤希少野生生物の生息確認

福岡県 RDB カテゴリ絶滅危惧Ⅱ類ではアオハダトンボ（那珂川市）、オオミノガ（福岡市南区、那珂川市）、オオシモフリスズメ（那珂川市）、コツバメ（那珂川市）、クロシジミ（福岡市南区、那珂川市）、タシロラン（福岡市南区）、福岡県 RDB カテゴリ準絶滅危惧ではムカシヤンマ（那珂川市）、マイマイカブリ（那珂川市）、ミツギリゾウムシ（那珂川町）、ハマダラハルカ（那珂川市）、ヒメキマダラセセリ（那珂川市）、アカシジミ（那珂川市）、ジャノメチョウ（那珂川市）などの生息を確認できました。これらは発見後いち早く SNS などでも保全に向けて情報発信をしました。



アオハダトンボ



オオミノガ



オオシモフリスズメ



コツバメ



クロシジミ



タシロラン

⑥外来種ムシャクロツバメシジミ、日本第二の移入地を発見

指定管理をしている各公園で継続しておこなっているチョウ類のトランセクト調査（ルートセンサス調査）で、2016 年秋に花畑園芸公園において見慣れないチョウが 1 頭引っかかってきました。その後の調査でこのチョウは中国と台湾に生息するムシャクロツバメシジミと判明、日本では第二番目の移入地の発見となりました。幼虫がベンケイソウ科植物を食べるこのチョウは、2013 年日本で初めて名古屋市河川の敷地で発見されており、今回の花畑園芸公園での発見原因も、ベンケイソウ科植物の園芸ブームに乗じて人為的に中国または台湾から植物にまぎれて入ってきたものと思われる。幸い花畑園芸公園にはベンケイソウ科植物は一切なく、おそらく近隣からの飛来でしょう。食草が野外に存在あるいは庭などで栽培されているため、本種の完全な駆除は大変難しく、福岡県では県 RDB2014 にもあがっている在来種クロツバメシジミ 2 亜種との競合が心配されます。現在までの追跡調査の結果その後福岡市内でもかなり広範囲に広がっていることがわかりました。



イタドリの花に来た成虫



タイトゴメを食べる幼虫



アリがつきまとう終齢幼虫

⑦情報の提供による社会貢献

テレビ、ラジオ、新聞、あるいは公共団体や自然保護関係団体等や SNS を通して、当社の持つ情報を積極的に提供することにより社会に対して広く問題点の指摘や知的財産の共有を図っています。

- テレビやラジオ
- 新聞や出版物
- 出前講座
- インターネットを利用するホームページや Facebook など



FBS テレビ



RKB ラジオ



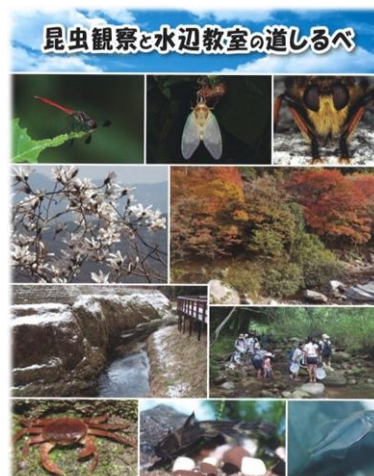
RKB ラジオ



西日本新聞



毎日新聞



那珂川町自然観察ガイドブック[動物編②]
昆虫・魚類・水生生物
那珂川町
那珂川市自然ガイドブック



福岡市環境局主催行事へ出前講座



Facebook

●健康の増進に関する取り組み

1. 地産地消の奨励

自分の住む地域で採れたものを食べるのが一番健康によいとされています。当社の管理する地産品販売所や提携のJA販売所では、栽培に際して減農薬のものをできるだけ安く提供することにより、購入者の健康と安心に寄与しています。地産地消は物流のコストやエネルギーの低減にもつながります。



花畑マルシェ



花畑マルシェ



かわせみの里

2.緑化意欲の創出

日々多方面からストレスを受ける厳しい時代ですが、目に優しく精神の安定を促す緑を身近に増やし、安らかさを取り戻せるよう樹種を厳選して植栽・維持管理し、そのノウハウを生業として提供しています。そのなかで、素人の取り組みやすいいろいろなタイプのミニガーデンを実際に作成展示することで、来訪者の自宅の庭先に緑を配置するキッカケとヒントになればと願っています。



3.各種イベントの開催

オゾンあふれる緑の環境の中で四季折々のイベントを多種行い、心身ともに満足感を味わってリフレッシュできるよう心配りをしており、来訪者に喜ばれています。

イベントの一部



アーリーサマーフェスタ



ウメの加工と収穫体験



カブトムシの飼育里親制度



ダイコンの植えつけ



ハチクマの渡り観察



みかん狩り



落花生の植え付け



剪定教室



いぎもの観察会



昆虫の夜間観察



芋ほり



自然物工作教室



中山間ふるさと祭り



テニス大会

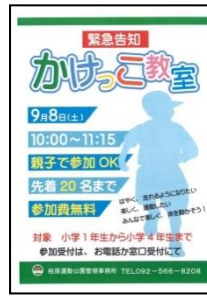


園芸祭り



注連縄づくり

イベントポスターの一部



●指定管理公園向け自然観察指導者スキルアップ社内講座の実施

当社の携わる指定管理公園では公園利用者からさまざまな質問が投げかけられたりします。今年は社員が直接利用者に向けて各種のアプローチを行う手法や知識を体得するための自然観察の実践的講座を社内講座として設けましたが、外部の自然環境関係者などからぜひ聴講したいとの要望が強く出され、2回目より急遽外部参加者も受け入れ可として講座を開き、内外から高い評価を受けました。講座の開催期日と内容は次のとおりで、各講座、1時間半の座講、30分質疑応答、1時間半の野外観察の構成で実施しました。

- 第1回 2018年1月23日(火) 13:00~16:30 検原運動公園
『トランセクト法(ルートセンサス法)の活用による自然環境の把握』
チョウを使った自然環境の調査法、集積法、解析法を実際のデータで実感
- 第2回 2018年3月27日(火) 13:00~16:30 中ノ島公園
『ミツバチがいなくなったら人間は』
食物連鎖トライアングルの底辺の構造と上位生き物との関係に忍び寄る危機
- 第3回 2018年5月22日(火) 13:00~16:30 グリーンピアなかがわ
『自然もうそをつく』
昆虫の興味ある擬態の実際とそのカテゴリ
- 第4回 2018年7月22日(火) 13:00~16:30 グリーンピアなかがわ
『里山の危険生物』
野外活動で遭遇する恐れのある危険な動物たち
- 第5回 2018年9月22日(火) 13:00~16:30 春日公園
『昆虫と植物』
植物と昆虫の間にある特殊な関係とその起源や進化

●その他の活動の例

このほかにもさまざまな環境活動を積極的に行っています。



油山ランドスケープ公園



中学生職場体験学習



ミニミニミュージアム



デイケア参加の花壇づくり



手作りの木製遊具を用意



鳥の給餌



野鳥の巣箱の設置



繁茂した池のヒシの除去



スズムシの鳴き声の提供



鷹カイトでカラスを排除



観賞用草本の栽培と展示



リサイクル腐葉土の配布

6) 社会貢献

●自然教育 取組：本社（指定管理・グリーンピアなかがわ）

・イベントの運営

「グリーンピアなかがわ いきもの観察会 2016」 「まほろば自然学校」共催
 緑に関する私たちの事業が、人類のため社会のために重要であることを発信していきたいと考えています。
 そのために、子供たちへの自然教育を実施しています。この取組を通じて緑地を造るだけの造園工事業
 から緑の空間を活用し、重要性を伝える、より社会性の高い事業に切り替えます。

「カブトムシ捕獲大作戦」

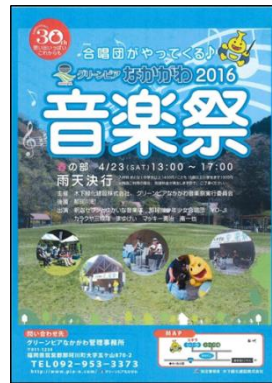
森林資源の恵みを子供たちに身近に感じてもらうこと自然の中で遊ぶことの楽しさを感じてもらうことを
 目的に実施した企画です。

「音楽祭」

自然ゆたかな「グリーンピアなかがわ」で、季節の自然を感じながら音楽を楽しみました。

「私たちの樹プロジェクト」

福岡市の小学生と学校に植樹し、植物の大切さを伝える活動を行っています。



(いきもの観察会) (カブトムシ捕獲大作戦) (音楽祭) (私たちの樹プロジェクト)

●ボランティア活動 / インターン受入

(公社)福岡県造園協会主催のグリーンピアなかがわに広葉樹を植栽するボランティア活動に積極的に
 参加しています。

毎年、高校生・専門学校生・大学生のインターンシップの受入を行っています。
 将来的に緑に関わる職業に就いて環境に貢献できる人材育成を支援しています。
 2016年度はベトナムからの留学生3名がインターンシップを行いました。
 各公園で小学生の仕事体験、中学生の体験学習等の受入も行っています。



(植栽ボランティア)

(留学生インターン受入)



8. 環境関連法規等遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、控訴等の有無

環境関連法規	要求事項	遵守状況
グリーン購入法	一般的な義務	適
廃棄物処理法	一般廃棄物の処理（委託）	適
	一般廃棄物の処理（委託基準）	適
	産業廃棄物の処理（処理義務）	適
	産業廃棄物（処理基準）	適
	産業廃棄物（保管基準）	適
	産業廃棄物（保管の届出）	適
	産業廃棄物（委託）	適
	委託基準	適
	産業廃棄物（排出者責任）	適
	産業廃棄物（多量排出事業者の義務）	適
	産業廃棄物管理票の交付	適
	投棄禁止	適
	焼却禁止	適
	産業廃棄物管理票の写しの保存期間	適
	管理票交付者の報告書	適
	管理票の写しの送付を受けるまでの期間	適
管理票交付者が講ずるべき措置	適	
雑則	報告の徴収	適
建設リサイクル法	建設業等を営む者の責務	適
	対象建設工事の届出に係る事項の説明等	適
	下請負人に対する元請業者の指導	適
オフロード法	事業者及び使用者の責務	適
	使用の制限	適
	雑則	適
	建設業法に規定する建設業を営む者で特定特殊自動車を使用する者が特定特殊自動車（法の施工の前に製作等されたものを含む。）の排出ガスの排出の抑制を図るための取り組むべき措置に関して定めるものである。	適
	経過措置	適
騒音規制法	特定建設作業の事前届出	適
	規制基準の遵守	適
振動規制法	特定建設作業の事前届出	適
	規制基準の遵守	適
自動車リサイクル法	自動車の所有者の責務	適
	使用済自動車の引渡義務	適
	再資源化預託金等の預託義務	適
フロン排出抑制法	特定製品の管理者の責務	適
	第一種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項	適
	業務用のエアコンディショナー、冷蔵機器及び冷凍機器でフロン類が充填されている第一種特定製品のフロン引渡し	適
	回収依頼書、委託確認書の授受。	適
	引取証明書の授受。	適
	第一種フロン類回収業者は、第一種特定製品廃棄者に対し、フロン回収料金を請求出来る。	適
	フロン類の放出禁止。	適
家電リサイクル法	事業者及び消費者の責務	適
	料金の請求	適
小型家電リサイクル法	定義	適
	事業者の責務	適
農薬取締法	使用の禁止	適
	農薬の使用の規制	適
	水質汚濁性農薬の使用の規制	適
水質汚濁防止法	排水基準の遵守義務	適
大気汚染防止法	排出基準の遵守義務	適
悪臭防止法	規制基準の遵守義務	適
消防法	消防	適

当事業所及び建設現場に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反は有りませんでした。また、関係機関及び利害関係者からの指摘も訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価および見直しの実施日 ・ ・ ・ ・ ・ 2018年12月13日
評価者（代表者） ・ ・ ・ ・ ・ 木下 浩市（社長）

評 価

全社的な視点で見れば、取り組みの成果が感じられるものとなっています。しかし、リサイクルセンターの数値の悪化は看過できるものではありません。この原因は、“製造された堆肥の排出場所が遠い”というものです。また、見方を変えれば“予め、リサイクルセンターの近接地に堆肥の排出場所が確保されていなかった”とも言えます。搬出方法について、トラックが小さく1回あたりの搬出効率が悪いのも原因の一つです。つまり、準備不足です。木下緑化建設㈱の環境マネジメントにおいて、初めて距離や準備の問題が大きな影響を与えたこととなります。また、このことは会社の収益にも大きな影響を与えていました。

一方、工事現場でもガソリンが大きく増えています。産廃ボックスにおいては、ガラス・陶器くずの割合が上昇しています。このあたりの原因追究がまだ足りないと思います。なお、「現場間移動の効率化」を2018年10月1日以降、環境方針に加えます。

見直し(変更の必要性和指示)

- ①リサイクルセンターの堆肥排出先の近接地確保や搬出用トラックの大型化を検討すること。
- ②リサイクルセンターの電気使用状況について、ベルトコンベアの稼働日がわかるような記録をつけること。
- ③現場監督ごとのガソリンの使用量をチェックし使用の多い社員の仕事の仕方を確認し、必要性があれば指導すること。
- ④産廃ボックスのガラス・陶器くずの発生原因を究明し、工事現場での材料の搬入・使用方法等を確認し必要性があれば指導すること。



KINOSHITA

～ 環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する ～



桧原運動公園
HIBARU SPORTS PARK

春日公園
KASUGA PARK